

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/Cフロア)

事業所番号	2795200027		
法人名	社会福祉法人なみはや		
事業所名	グループホーム桜ノ宮なごみ		
所在地	大阪府大阪市都島区中野町1丁目12-11 アロンディール3F		
自己評価作成日	令和3年11月5日	評価結果市町村受理日	令和4年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々に合った生活援助。個々の意志を尊重したケアや取り組み。
 「グループホーム」という観点から職員も入居者様と共に支え合い一緒に暮らしていく、まさに入居者様にとって「ホーム」である事の重要性を日々意識しながら支援している事。
 アピール点は、関係機関や施設が多く、行事に富んでいる。目の前に広大な公園があり、都会のオアシスと呼んでも過言では無い程、落ち着ける場所がある。四季の巡りも感じやすく春には桜満開である。
 ロケーションはもちろんの事、散歩の際に拾い集めた落ち葉を、副菜に添えて季節感を味わってもらえるように工夫したりと個々の職員のきめ細やかな心配りも実践している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年12月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「すべての人の尊厳を尊重する」という理念に基づき、管理者・主任・職員間で話し合い共有し実践につなげている。職員間同士の共有、実践につなげる為にもフロア会議で理念の話になることがあり、「この場合どうしたらいいか？」というような時には一度理念に立ち戻り、理念に沿ったケアを提供できるよう心がけている。しかし、個人的にはこの理念があまりしっくりきていないので時期を見て全体会議で変更を進言するつもりである。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	都島中野町連合の町内会に加入させていただいている。運営推進会議に町内会の会長にお越しいただき、当施設の入居者様が参加できるような「カフェ」等紹介して頂き参加している。また、区民祭・盆踊り・獅子舞踊り等、地域の方々がお越し下さったり、当施設の入居者様が赴いたり地域の方々と相互的に交流できるよう取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設が認知症ケアの地域における拠点としての役割を担えるよう、運営推進会議等を通して様々な事を発信している。また、当施設も他施設等からの具体的な支援の仕方や、事故防止の対策等を学び、また、それを地域に発信する、というように地域と相互的に認知症ケアを高めあえるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他施設職員や地域包括支援センター職員の方々等を運営推進会議にお呼びし意見やアドバイスを頂いている。それを元に、フロア会議で職員間で協議、精査した後実際のケア、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の担当の方と密に連絡を取り、都島区役所や総合医療センター等に当施設の写真等を掲載、紹介して頂いたりしている。区役所の担当の方は当施設にとっても協力的で、様々な相談にも快く応じて下さっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的に関催し、それをフロア会議等を通じて、職員間で共有している。”どのような場合でも身体拘束はしない”という姿勢で日々のケアに当たっているが、”これは身体拘束？””本人様がこうしたいと言ってるのに”等職員間でもまだまだ考える事が尽きない問題の一つでもある。御家族からは「身体拘束をしないケア」について、丁寧に説明すると、納得して頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	まず「虐待」について各職員にはしっかり勉強してもらい、理解してもらえるよう努めている。もちろん全体会議等で、勉強会も行っているがこの問題は非常に根深く、職員の精神状態であったり、各職員の認識や価値観の相違によって生じる事だと個人的には思っていて、また発見する事も難しい問題だ。何気ない気持ちで行ったケアが、「虐待」であったり、自身では良かれと思って行ったケアが、それに繋がったりと様々だが、大事な事はその場面に直面した職員が、「それ虐待やで」と注意しあえるような職場作りだと思い、それに努めるようしている。また、衛生委員会を開催し、定期的に職員のストレスチェックを実施、虐待の危険が潜在するような職員には個人的に話し合いの場を設け、少しでも虐待に繋がらないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会や、実践者研修を通しての職員への周知や理解に努めてきたが、半年程実施出来ていないので、また勉強会等開催したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は本人様やご家族が不利益を被る場合等も想定し、丁寧に説明を行っている。また、入居の長期化や要介護の重度化に伴い、都度御家族との話し合いの場を設け、金銭面や様々な負担、不安に思う事等を出しやすい関係性を構築し、適切なアドバイスを行えるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様は元より、御家族等の意見を反映させる為には、御家族が意見・要望等を表させやすい関係性の構築が必須であり、それに努めている。また、運営推進会議への参加等を利用して頂き、区役所職員や外部の方へも意見を伝える事ができる場を設け、それらを運営に反映させる事ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の声というのは、非常に大事にしており、それを活かせるかどうかで、入居者様のQOL向上にも繋がってくる。日々のケアの中で、各職員と気さくになんでも話せる様な関係性を構築する努力をし、またそれらを職員間同士でも話し合い、様々な意見を精査し運営に活かせることができるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々のケアの中で各職員と話し、職員のやりがいや向上心の継続を意識しながら就業環境の整備に努めてはいるが、現状打開策が思いつかない問題等もあり、都度、管理者と相談しながらそれらの仕事に当たっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会は、フロア会議の度に開催し、また、各々職員に日々のケアの中で様々な事を学んでもらうよう助言を行っている。また、入居者様の状態変化や認知症状の悪化に伴い、都度、勉強会や講習を行い、「医療」「介護」「計画作成」等、広い視野で見た”ケア”の質の向上に各職員が繋げる事ができるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループの施設職員や管理者とは度々会う機会を設け、仕事の悩みや問題点等お互い言い合うことができ、また分からない事を聞いたりできる関係にある。それらは自然と同グループのサービスの質の水準の向上に役立っていると個人的には思う。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様や御家族の言葉一つ一つや気持ちをしっかりと受け止める事を重点に置いている。すぐに一番良い提案を出すことは難しくとも、まず、本人様、御家族に寄り添い、不安や要望を聞き出すことが容易になるような関係性の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思いや要望は、本人様のニーズとの間に齟齬が生じる場合もあり、どちらの意見にも耳を傾け最適な提案を導き出せるよう努めている。特に、拘束に近いような事を要望して来られる御家族等には、ただ「出来ない」のではなく、まず受け止め、熟考し、御家族の気持ちに立った上で、様々な提案や説明を行うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「新入居者様初期観察記録」を用い、職員全体で観察・関わり、本人様のニーズを見極める事ができるよう努力している。また、他の関係機関とも連携を取りながら広い視野での「見極め」という事を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のケアの中で、スタッフの休日の出来事や思った事等話す事で、入居者様も話の幅が広がり、また違う一面が垣間見える事があります。また、入居者様は人生の先輩であり、何気ない会話等から多くを学ばせて頂くことが出来る。そういう関係性を構築し、共に歩んでいくことができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当施設のバス旅行や、誕生日会・納涼祭・クリスマス会といった行事へのご参加を御家族に積極的に呼びかけたり、本人様の様子や状態を伝える際に必要になりそうな物を相談し、購入して頂いたり、御家族と共に本人様を支えていける様努めている。また、御家族との外出や外泊等も自由にして頂き、陰で支える黒子のように支援する努力をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症の方は、信頼関係ができていたとしても昔の友人や馴染みの場所を上手く伝える事ができない場合が多い。日々の暮らしの会話の中でそういう事を、すくい上げ実際の人や場所を特定することがまず大事になります。昔の友人等とお手紙でのやり取りは実際にやっています、馴染みの人や場所となると御家族にかなり協力していただいているのが現状。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士でお手伝いをして頂く際、洗濯物のたたみ方や食器の置き場所が分からなくなった時等、お互いに気軽に教えあったり、相談しあう事ができるような関係作りに努めている。そのために、日々の暮らしの中で、入居者様同士の食席の席替えを行ったり、レクリエーション等を通して入居者様同士が支えあえるようなケアに取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院され、そのまま当施設へ帰って来る事ができずに退所になってしまう場合がある。そういう時には、自身の無力さに苛まれる事があるが、すぐに気持ちを切り替える努力をしている。転院するような場合には、本人様の当施設での状態や習慣等を細かく転院先に伝え、御家族とも定期的に連絡を取り、現状をお聞きしたり、また、御家族からも気軽に連絡をして下さるよう伝え、共に経過を見守っていただけるような配慮を心がけている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや要望を伝える事ができる入居者様はいいのだが、当施設の特性上なかなか思いを表出する事が困難な認知症の入居者様も数多く入居して頂いている。本人様の視点に立ち本人様本位で物事を考察し、また、フロア会議等を通して職員同士で意見を出し合い最も適した選択を考え続けていくことが重要だと私は思っており、それを職員にも意識付けさせている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活を通して会話の中でさりげなく本人様の昔の事や生活歴等を伺い、プライバシーに配慮しつつ、職員同士で共有し合っている。また、御家族からも本人様の生活歴から病歴に至るまでお伺いし、日々のケアに活かせるよう努めている。もちろんそういった情報を引き出すためには信頼関係の構築がまず必須である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、本人様の身体、精神状態を把握し、職員で共有するために、定時のバイタルチェックや排泄状況を確認し、また、何気ないコミュニケーションの中にも様々な発見があり、「こんな字を書くことが出来た、こんな事が出来た」とまだまだ驚かされる機会が多々あり、都度職員同士でも共有している。また、その残存能力を維持向上させていくようなケアにも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様からの要望等は元より、個人的に一番重要視しているのが、現場の職員目である。日々、本人様と関わり携わっている職員同士の意見やアイデアを元に介護計画を作成し、また本人様の心身の状況に応じて臨機応変に追加、変更を繰り返し、観察し続ける事の大事さを職員には意識付けるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には「魚は噛むことが難しかった様子で残されていた」等、職員の気づきや細かい様子を記入し、それらを職員間で共有する事で、これからの実践と介護計画の作成に役立つよう取り組んでいる。また、本人様の発した言葉というものをそのまま記入してもらい、その状況が鮮明に思い浮かべることができるような記録の仕方に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様からの要望や職員の発見から生まれるニーズは様々であり、そこには「歯科往診」等、事業所のサービスとして追加できるものと、「入居者様と御家族の結婚式に出席する」等、サービス外のものがある。事業所として「そのサービスは出来ません」と最初から出来ない旨を伝えるのではなく、どうすれば可能なのか？を考察する事が大事である。ちなみに結婚式には休日の職員「残業」という形で出席した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握には、運営推進会議の際、区役所職員さからは、近くの医療センターでの催し物等、公的に近い行事やボランティアを、町内会の会長や会員の方々からは、祭りや運動会といったような催し物を紹介していただき、入居者様の参加に役立てている。また、職員も入居者様も地域資源の中の1つの役割だと意識し、町内会の行事等には積極的にお手伝いに参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設の関係医療機関をかかりつけ医として頂く場合が多いが、本人様の馴染みのかかりつけ医をまず基本に、本人様・御家族と相談の上、選択して頂いている。また、本人様・御家族と協議の上、精神科・歯科・褥瘡専門医等、様々紹介させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、職場内に看護師が在籍しており、介護職員がすぐに相談できる体制が整っている。また、提携医療機関の東和病院より週2回の訪問看護の受け入れも行っており、職場の看護師が休みの時には、訪問看護師への報告相談も可能となっている。介護職員は、入居者様と日々暮らしていく中でいち早く身体の変異や変化を察知すると共に、迅速な看護師への連絡・相談を行うことができるように努めている。また、介護・看護の密な連携という事を大事にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合は、まず、入院させるかどうかの是非から、御家族・本人様と相談し、御家族・本人様・医師・看護師を交え協議をし、できる限り本人様や御家族の意向を医師にも聞き入れてもらっている。入院時は本人様の精神的・身体的ダメージを考え、できる限り安心して入院生活を送れるよう、普段の生活環境や心身状態を医療機関へ伝え、また、日々の状態を把握するためにも定期的に連絡を取り合うように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合以外でも、少しの状態の変化があったその都度、御家族・本人様との協議を行い、ケアの仕方や対応を見通したり、変化させたりしている。御家族・本人様に重度化する前から「もし、重度化したら」という場合も少しだけ念頭に置いて頂き、安らかに当施設での生活を送って頂けるよう努めている。また、重度化した時には、本人様の要望をうまく引き出す事が難しく、御家族の今後の方針も心変わりしている事が多く見受けられ、当施設としては、医療・介護の両面から、本人様が一番安心できるケアを考えながら臨機応変に対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な講習・指導、また消防士による救命救急講習を行っている。実際「急変時の対応」というのは、職員の経験による所が大きい。指導・講習時に職員には、介護職員としてではなく、1人の人間として「救える命がある」という事を意識させ、マニュアル通りにいかない不測の事態も有る事等も考えてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害対策は、消防士の元、一通り避難訓練時に行っている。また、ライフラインの断絶等の事態にも備え、水の備蓄や食料の確保も行い、緊急時に備えている。 運営推進会議では、水害の避難場所等に当施設を開放する旨も伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方や日々の会話の中でのプライバシーの確保。また、トイレ時や入浴時のプライバシーの確保等、職員に徹底指導しているが、難しい問題の一つに「入居者様の呼び方」がある。「～ちゃん」と呼んでほしい、という入居者様がいたとして、本人様の気持ちを優先するのか、「介護」として、タブーな物はタブーとするのか、日々職員同士悩んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症状が進み、自身で物事を判断・決定したり、自身の思いを上手く表す事が難しい入居者様でも、仕草や表情等からその本人様の深層心理を探り、「今、どうしたいのか」という事を注意深く読み取る事ができるよう努めている。また、自己決定しやすいような声かけにも心がけている。そして、本人様のそうした深層心理を把握するには、日々の深い関わり合いが必須であり、そこから生まれる信頼関係があってこそだという事も職員には意識させている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペースや本人様の1日のリズムに合わせてケアを行っており、食事や入浴・排泄介助等、必ず声かけし、本人様の状態や希望に沿った支援をしている。その人らしい暮らしというのは日々のケアの中で職員が見つけていき、好きな時に日記を書いて頂いたり、好きな時にテレビを見て頂いたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時、入浴時等自身にて服を選んで頂き、できうる限り、髪の間髪等も自身にて行って頂いている。また、「寒いから」や「暑いから」等の理由で職員の価値観による上着の着脱等はせず、本人様に合わせ、居室やリビングの温湿度を調整するよう心がけている。また、訪問理容に定期的に来所して頂き本人様の希望で受けてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「食事」は特に女性入居者様に得意な方々が多く、また、その知識・経験を発揮できる絶好の場でもあると思っている。もちろん、苦手な「やりたくない」という方もおられるが、お声をかけると調理・配膳・盛り付け等、積極的にして下さる入居者様が多く、職員と一緒にいる。また、味付けや食材を入れる順番等、職員が勉強させられる事も多く、共に作り、共に味わう事の大事さを職員には意識させている。後片付も、入居者様と一緒に、「食事」という一連のケアについて共に楽しむという事を心がけている。散歩の際に拾い集めた桜の花びらや落ち葉を、副菜に添え季節の彩も楽しんでもらえるよう細やかな心配りをする事も意識している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導、職員の日々のケアにおける利用者様の食事摂取及び、水分量の把握、体重の増減等を、職員全員が常に意識し把握するように努めている。食事は全量摂取を目指しているが、利用者様の摂取状態を見計らい、時間を変えたりして工夫している。水分も同様。またDM(糖尿)の方もおり、往診の都度Drと協議を重ね、状態を把握してもらいながらなるべく本人の意向に添える様に、おやつ等の接種が可能になるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様には毎食後口腔ケアをして頂いており、自身でもできる範囲の事はしてもらっている。義歯脱着不可な方はほぼ全介助で実施している。また口腔ケアの重要性として口腔内に食物残渣があると誤嚥性肺炎のリスクが高くなる等を職員に周知させ、徹底させている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は本人様の身体の状態だけでなく、自信や尊厳にも深くかかわってくる、大事な生活動作の1つである。本人様の排泄パターンの把握や、状態にあった下着又はオムツの使用を考える事はもとより、本人様の尊厳も傷つけない、自信を損なう事のないようなトイレの声かけや、誘導に努めている。また本人様の状態の変化を都度、Dr,Nsと相談しながら、排便コントロールをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や1日の水分摂取量・体操や歩行訓練等の運動と、便秘予防に努めることは、職員一人一人重々周知し、日々のケアに当たっている。しかし高齢者の便秘は解消が難しく、ひとえに原因の追求と言っても、医師、看護師、職員での話し合い本人様の生活歴、既往歴等の把握に努めてみるが、現状困難な状態。本人様の排泄パターンや、周期のあわせやむなく下剤を服用していただいているのが現状。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおよその入居者様の入浴日は決めていますが、本人様の希望通りに入浴をしてもらっている。入浴に伴って発生する本人様のプライバシーの保護や、尊厳の確保に気を配りながら、声掛け、介助を行っている。また入浴時は本人様に少しでも楽しんでいただけるような工夫も職員によって対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自身にて歩行可能な方、自己判断できる方は自由に居室のベッドや、ソファに横になって頂いている。午前中は比較的臥床して過ごし、午後から活動的に過ごされる方もいる。自身で居室に戻ることができない方は職員が様子をうかがいながら、都度声掛けや、臥床の介助を行い、寝たい時は寝ることができる、環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は副作用や誤薬によっては、入居者様の命とりになりかねない、慎重を期す重要なケアの一つである事を念頭に置き、日々のケアに当たるよう職員には周知徹底している。本人様がどういった薬を何の目的で、いつ服用しているか、またどのような副作用があるか把握し、日々のケアに当たることで、本人様の状態変化や、悪化等にも素早く察知し、原因を推測できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人の生活歴や得意分野を最大限に発揮できるような役割であったり、お手伝い、レクリエーションの支援に努めている。本人様が楽しむと言う事も大事だが、役割を持たせ、役に立ったと思えるような充実感を持った暮らができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的には本人様の希望に添えるよう外出、外泊もして頂いている。特にお正月、お盆、親戚が集まれる時期や、お墓参り等に出かけられる頻度が高く、ご家族の協力を仰いで、気持ちよく外泊外出できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方にお金の管理は出来ないと決めつけず、少額でよいので出来るだけ本人様に所持管理を任せ、小さな買い物でもよいので、本人様が自身でお金を使うという喜び、実感、達成感を感じることが出来るよう、個々に合った支援に努めている。またそれをしっかり職員が周知、把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が自己の意志で、いつでもどこでも誰にでも、自由に会いに行くことは実質不可能に近い。電話や手紙というのは本人様がが家族や大切な方とつながることが出来る重要な手段の一つであり自由に電話をしたり、手紙を書いたりされている。が家族との電話時間の調整や手紙の送付また返送されてきた物を本人に渡したり本人様にはできない面を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースや居室、廊下には季節を取り入れた飾り付けを、入居者様と共に行っている。大体2か月に一回は作り変え、桜、こどもの日、夏祭り、秋祭り、十五夜、ハロウィン、クリスマス、バレンタインデー、ひな祭り、節分、入居者様が五感を感じられるように工夫した飾り付けを行っている。また居心地よく過ごせるよう温度、湿度を空調で管理し、換気にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	認知症の方は、いつも隣に座っていた方が少し離れたり、いつもと違う席に座る等の些細な変化にも敏感に感じ取られる。利用者様個々にもストレスの原因も感じる強さも様々だが、安心して穏やかに過ごせるような席の配置や、時には一人になれるような椅子やソファの配置に気を配りながら、支援している。そして日々のケアの中で入居者様が不安なく安心して過ごせているのか、常に職員はアンテナを張りケアを行うよう指導している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には可能な限り本人様の馴染みの物を持ち込んで頂き、本人様と相談の上、動線等に配慮した設置をし、安全で居心地よく過ごせるよう努めている。また本人様がその人らしく過ごせるよう、自身や家族様のアルバム、レクリエーションで自己にて創作された物も、本人様と相談の上飾り付けを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースの自席のテーブルに杖置きを設置したり、思いつくまま日記を書けるように、自席のそばに筆記用具、日記帳をひとまとめにできる物を作ったり、個々への配慮を考えた環境作りに努めている。また居室間違いを防ぐためにも必要最低限度の案内板や名前の表示を設け安心して暮らせるよう支援している。また転倒等の事故のその先を考え、独歩者の目線での環境整備も行い、被害が最小限に収まるよう取り組んでいる		